

授業科目名[英語名]

経世済民の公共政策学入門[Public Policy for Beginners]

担当教員名[連絡先(TEL,研究室など)]

吉田健一[099-285-3756]

E-Mail	k5621643@kadai.jp	受講対象	全				
課程区分	共通教育	学科/科目・分野等	教養 2 分野	開講期	後期金曜 4	単位等	2

共同担当教員名

教育目標のキーワード

視野・判断力・探求能力/

学習目標(学生の達成 目標)

- 1) 政治学の基本概念をある程度理解する。
 - 2) 戦後の我が国の政治史の流れをある程度理解する。
 - 3) 現代日本政治の抱える政策課題について自ら考える。
 - 4) 日々の政治ニュースを見る独自の視点を持つようになる。
 - 5) 民主社会の一員として、主体的に世の中を作っていくことの意義を考える。
- 結果として、受講生諸君が自ら公共の課題について自分なりの政策を考えられるようになるのが目標である。

授業概要(目的・内容・方法)

本講義は、1回目「はじめに」から9回目「政策過程」までは、主として政治学の立場から知識を伝授する。次に10回目から12回目では、戦後の日本政治史を概観する。今に続く日本の課題がどうやって生まれたかを知るためである。13回目から15回目は基本的知識は伝授するが、受講生各人の意見を表明する場を設けたい。(テーマを決め、討論、ディベート、発表などを想定)これで、参加度、理解度を見る事とする。評価は立場や考え方に依らず、どこまで自分なりに深めたか、反論に対して説得力のある根拠をもって自説をもつに至ったかを評価したい。「地方自治」「国際政治」「安全保障」「構造改革」などは、どれも極めて現代的なテーマかつ我々自身の問題である。本講義を「経世済民の公共政策学入門」としたのは、受講生諸君が公共の問題に主体的に関わる態度、基本的姿勢を涵養する事を期待しているからである。受講生諸君と様々なイシューについて議論し共に地域・日本・世界の未来を考えて行きたい。

授業計画(15回に分けて、回数、日付、授業内容、授業外活動など)

1. はじめに 政治とは? 経世済民の学とは?
2. 選挙・投票行動・政党制
3. マスメディアと政治意識
4. 政治を動かす「思想」と「利権」
5. 政治家の種類と仕事 - 首長・国会議員・地方議員
6. 官僚制 中央と地方公務員
7. 利益団体・社会集団・ネットワーク
8. 首相のリーダーシップ 歴代日本の総理大臣のタイプ
9. 政策過程 政策はどうやって作られるのか
10. 政治改革 戦後から90年代初頭の日本政治 55年体制の成立過程とその崩壊
11. 政治改革 90年代以降の日本 非自民政権から自社連立政権を経て自公連立へ
12. 現代日本政治の課題 小泉構造改革から、安部、福田を経て麻生へ
13. 地方自治 民主主義の学校
14. 国際政治 世界の中の日本
15. 日本とアメリカ 安全保障の歴史

受講要件	公共政策、現代政治の諸課題に関心をもっている事。選挙、政策、政治思想、政党制、地方自治、国際政治、外交、メディア、官僚制など何でも良いので何か1つ特定のテーマに関心を持っている事が望ましい。
評価基準および方法	(全て出席を前提として) (1) 毎回のフィードバックシート(30%) (2) 授業に対する参加度、貢献度、理解度(30%) (3) 期末レポート(40%)を総合的に評価。出席そのものを評価の対象とはしない。 本講義は出来れば少人数でのゼミ形式を考えているので、討論や発表など講義への参加度、問題意識をどう深めるかを重視する。各受講生の考え、感じ方を問うのはフィードバックシートを中心に行うが、受講生の基本知識の理解度を見るために小テストを数回行う事も視野に入れている。

教科書	特に指定しない。参考文献を随時紹介する。受講者は任意に関心のある参考文献を入手して読む事が望ましい。	参考書	『日本の政治』村松岐夫・伊藤光利・辻中豊 有斐閣 1992、『日本の政治力学』中野実 日本放送出版協会 1993、『政治学』大嶽秀夫・鴨武彦・曾根泰教 有斐閣 1996、『政策科学入門』宮川公男 東洋経済新報社 1995、『政策科学へのアプローチ』山口定・柴田弘文編著 ミネルヴァ書房 1999、『政治改革』山口二郎 岩波新書 1993、『日本政治の課題 新・政治改革論』山口二郎 岩波新書 1997、『戦後政治史』石川真澄 岩波新書 1995
授業時間外対応(オフィスアワー、授業後、学習シートなど)	【オフィスアワー】毎週水曜日午後 【メール】 【授業後】	その他	事前に連絡を頂ければ、正規のオフィスアワー以外の時間であっても議論に来てくれる事を大いに歓迎します。